

大阪・関西万博

滋賀県基本計画（最終案）



滋賀県

1 全体概要

(1)大阪・関西万博の概要	03
(2)滋賀県としての参画とその意義	04
(3)SDGsへの貢献	07
(4)出展の目標	08
(5)出展参加のテーマ	09
(6)オール滋賀での万博参加	10
(7)関西広域連合との連携	10

2 展示計画（ブース出展について）

(1)基本方針	11
(2)展示の概要	12
(3)運営計画	16

3 催事計画・来県促進の取組

(1)催事計画	17
(2)来県促進の取組	18

4 レガシーの活用

(1)基本方針	19
(2)レガシー活用の方向性	19

5 全体スケジュール	20
------------	----

1

全体概要

(1)大阪・関西万博の概要

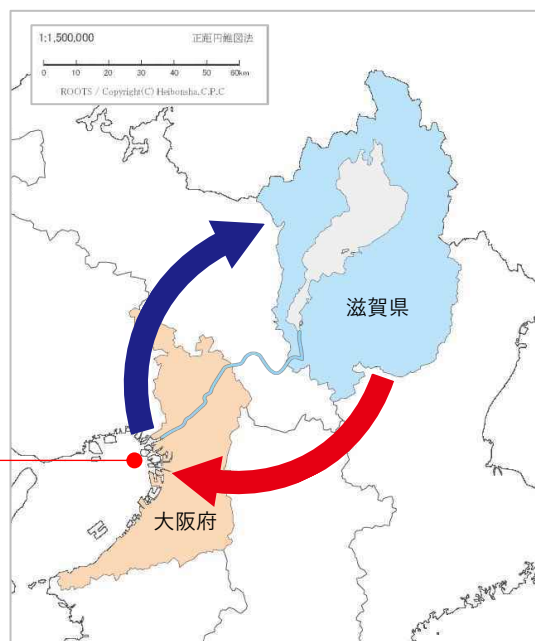
- 名称 2025年日本国際博覧会／（略称「大阪・関西万博」）
- 開催場所 夢洲（大阪府大阪市臨海部）
- 開催期間 令和7年（2025年）4月13日（日曜日）～10月13日（月曜日）184日間
- 来場者数（想定） 約2,820万人
- テーマ いのち輝く未来社会のデザイン “Designing Future Society for Our Lives”
- サブテーマ
 - ・ Saving Lives（いのちを救う）
 - ・ Empowering Lives（いのちに力を与える）
 - ・ Connecting Lives（いのちをつなぐ）
- コンセプト
People’s Living Lab（未来社会の実験場）
- 関西広域連合パビリオンテーマ

いのち輝く関西悠久の歴史と現在



会場パース図（提供：2025年日本国際博覧会協会）

滋賀県と万博会場の位置関係



(2)滋賀県としての参画とその意義

滋賀で受け継がれてきた「いとなみ」

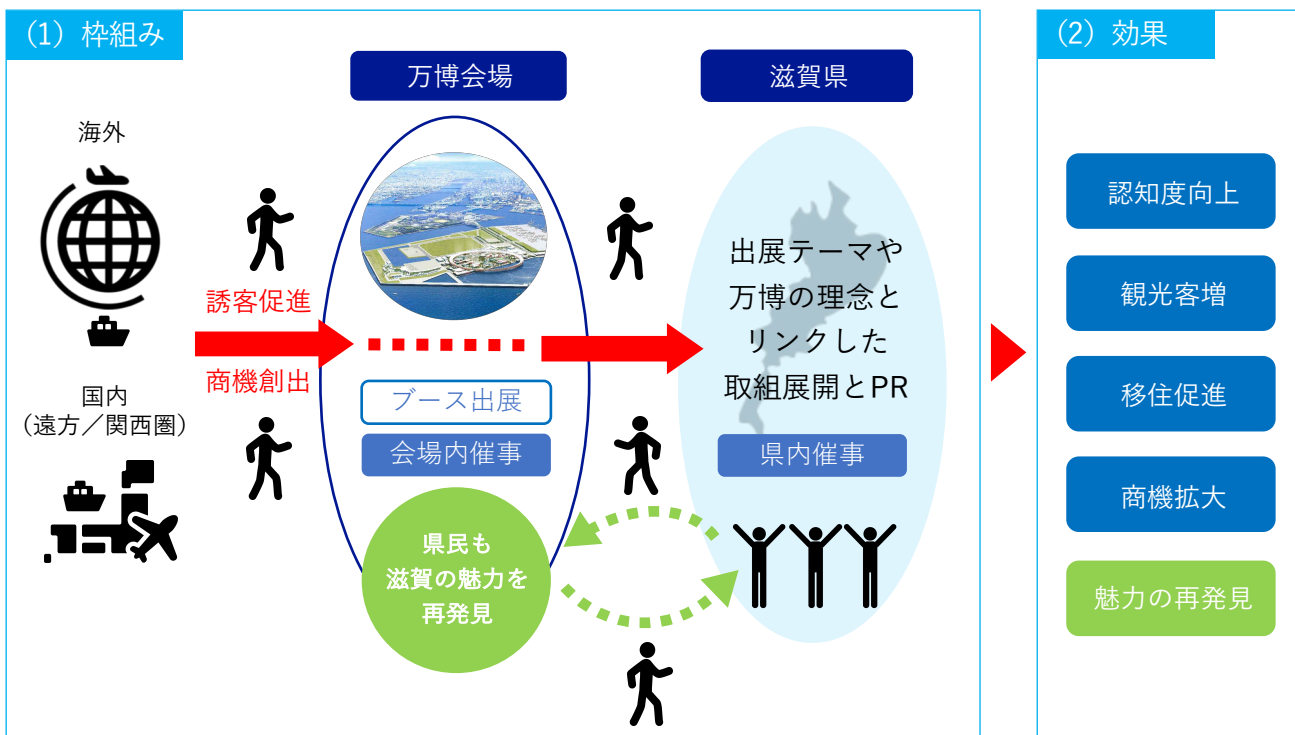
滋賀は日本最大の湖である琵琶湖を中心に周囲を山々に囲まれ、この地では、豊かな自然とともにある人々の「いとなみ」が脈々と受け継がれてきました。この「いとなみ」は、「いのち」に光を当てた大阪・関西万博の理念に共鳴する価値として、人類共通の課題解決に向けた英知が結集する万博で多くの人々に伝え、広げていく必要があると考えます。

大阪・関西万博への視点

大阪・関西万博は、会期中に国内外から約2,820万人の来場が見込まれる国家規模の一大イベントです。滋賀県では、この機会に滋賀のことをより多くの方に知っていただき、万博をきっかけとして観光、移住、ビジネス等、幅広い分野で一人でも多くの方に滋賀に関わっていただけるように取り組んでいきたいと考えます。

また県民にとっては、普段の滋賀の暮らしの中にある魅力を再発見できる機会としたいと考えます。

<本県における万博の活用イメージ>



(会場パース図提供：2025年日本国際博覧会協会)

「関西パビリオン」へのブース出展

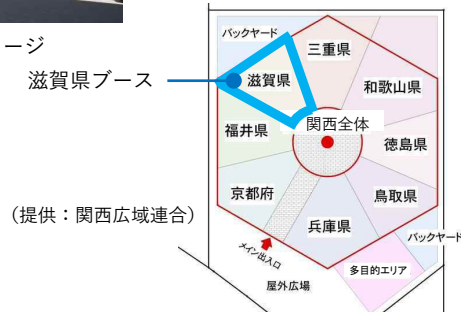
滋賀県も参画する関西広域連合が、地元関西の魅力をアピールするため、万博会場に「関西パビリオン」を設置します。

滋賀県はここに「滋賀県ブース（仮称）」（以下「滋賀県ブース」といいます。）を設けます。滋賀のことをまったくご存じない方から、滋賀になじみのある方、滋賀にお住まいの方まで、滋賀の魅力を発見・再発見していただけるよう、「滋賀らしさ」を存分にアピールしていきます。



関西パビリオンの外観イメージ
(提供：関西広域連合)

滋賀県ブースの配置図



(提供：関西広域連合)

会場内催事への出展

関西パビリオン内へのブース出展にとどまらず、万博会場内の各催事施設や、関西パビリオンに付設される多目的エリアを活用した催事も計画します。

琵琶湖を中心とした人々のいとなみや歴史、暮らしの知恵や滋賀の産業などをテーマに、先端技術を活用した未来感やライブ感あふれる体験を提供し、子どもから大人まで楽しめる催事を目指します。

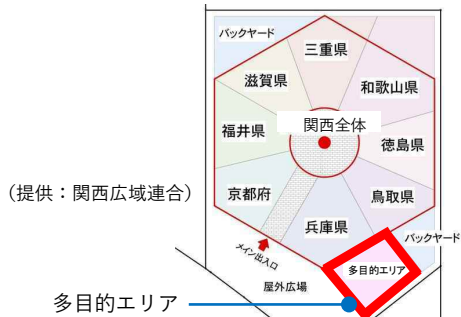
※2025年日本国際博覧会協会、関西広域連合における各催事スペースの取扱いが決定次第、計画を具体化していきます。

※2025年日本国際博覧会協会：大阪・関西万博の準備および開催運営等の事業を行う法人。



関西パビリオンの外観イメージ
(提供：関西広域連合)

多目的エリアの位置図



(提供：関西広域連合)

多目的エリア

万博会場内の催事施設

※施設の規模や仕様は2023年2月時点の想定のため、今後変更される場合があります
(提供：2025年日本国際博覧会協会)

万博会場から滋賀への人流促進

滋賀の魅力を一人数でも多くの方に伝えるため、来場者の方々には、滋賀県ブースへの来場をきっかけに実際に滋賀まで足を運んでいただき、本物を目にし、体感していただけるような仕組みづくりを目指します。そのために、万博会場をゲートウェイと位置づけ、県内への人流を促進する施策をあわせて実施します。県内では、会期前、会期中、会期後まで、県内の市町や経済界等、各種団体と連携しながら、おもてなしを展開します。

また県内での取組を万博会場と連携させ、相乗効果を生み出すことで、観光周遊や移住・定住、ビジネスマッチング、企業立地等につなげていきたいと考えます。

未来社会に向けた滋賀らしさの発揮

万博を契機として、滋賀に関わるあらゆる方々が、「関わってよかった」とお互いにメリットを感じ、資源を循環させて環境や社会にもやさしい取組を進めることで、近江商人に根付く「三方よし」の理念を体現しながら、未来に向けて持続可能な「いとなみ」をさらに発展させていきたいと考えます。

(3)SDGsへの貢献

ブースの展示、運営、催事等、あらゆる局面において、国際連合が提唱するSDGsやMLGs（下記参照）の理念を意識した取組を展開します。

また、これらの目標に関する発信・啓発についても検討していきます。

SDGsは世界規模の目標であり、自分たちの地域での行動を考えると、随分遠いことのように感じられることがあります。

そこで滋賀県では、より多くの主体が琵琶湖を守るための自発的な取組を通じてSDGsをより「自分ごと」として捉えられるよう

「マザーレイクゴールズ（Mother Lake Goals , MLGs）」という新たな目標を、県民・NPO等のさまざまな主体の皆様とともにつくりました。



MLGsは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標（ゴール）です。

琵琶湖版のSDGsとして、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に13のゴールを設定しています。

(4)出展の目標

滋賀県ブースは、本県へのゲートウェイとして活用することから、以下のとおり2種類の数値目標を設定し、滋賀への誘客を図ります。

滋賀県ブースへの目標来館者数

約30万人

現時点で想定される出展会場のキャパシティと大阪・関西万博の会期日数等をもとに設定した人数です。

大阪・関西万博を契機とした滋賀への目標誘客者数

約300万人

大阪・関西万博への来場想定者数に対して、コロナ以前（令和元年）の滋賀への来訪率を掛け合わせて算出しています。

また、経済波及効果の計算のみならず、エリア別訪問率の分析、デジタルスタンプラリー等による行動調査、県内におけるイベント開催時のアンケート等を活用し、県民や事業者が来県者数の増加を実感できるよう手法を検討します。

目標の達成に向けては、滋賀県ブースでの取組はもとより、会場内外の関連事業を効果的に活用します。また、これらの人流を観光誘客、移住促進、ビジネスチャンスの拡大等につなげます。

(5) 出展参加のテーマ

Mother Lake

～びわ湖とともに脈々と～

(英語版) Mother Lake

～ Sustainable Living with Lake Biwa ～

滋賀の人々は、はるか昔から、琵琶湖のそばで、琵琶湖を活かし、琵琶湖を守り、さまざまな知恵や工夫を用いながら共生してきました。

そしてこれからも、新しい技術を生み出し、取り入れながら、持続可能な生活を、築いていきます。

そんな独自のいとなみに、あなたも触れてみませんか。

そして、新しい未来を創造してみませんか。

出展参加のテーマには、このような想いを込めました。

(6) オール滋賀での万博参加

万博（登録博覧会）の開催は関西では55年ぶりとなります。身近な場所で開催され、参加の機運が高まっています。

参加の形態は、万博の会場に見に行くことだけではありません。出展者側の立場で参加する方法もあります。滋賀県では、参加の機会やさまざまな情報を提供し、希望者自らがメニューを選択して参加できる万博を実現するため、オール滋賀での万博参加を掲げ、令和5年度（2023年度）はじめに推進体制を構築し、会期前・会期中・会期後と全期間を通して県民・事業者・県内市町との共創を目指します。

県民との共創

県民生活に密着したさまざまな媒体を通じ、万博に関する情報や滋賀県の取組等を発信。たとえば、県民が参加できる事業の情報提供や、NPO等各種団体の活動推進につながる情報の発信等に努めます。特に、1970年に開催された大阪万博に参加した方々が体感したような、「ずっと記憶に残るインパクト」を、2025年に滋賀の子どもたちが経験し、子どもたちの夢を育める施策を検討します。

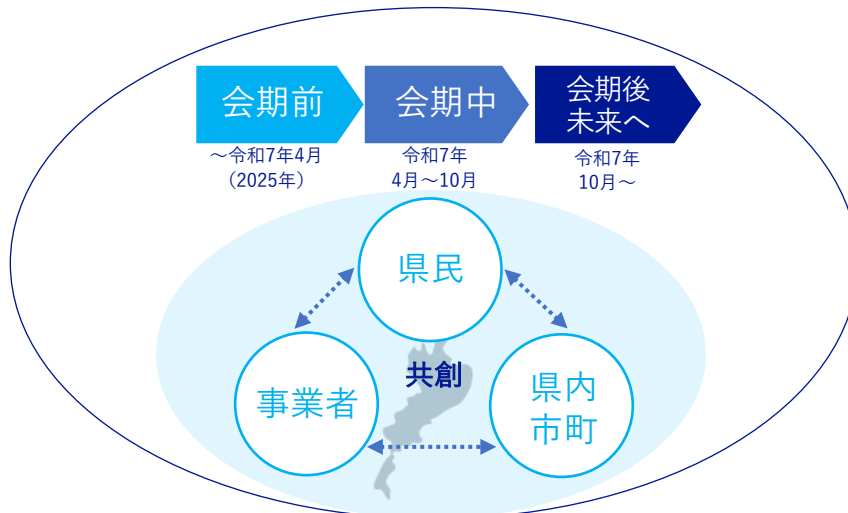
事業者との共創

誘客プログラムの企画や、展示・催事等を通じた情報発信、また多様な万博への参加メニューの情報提供等、経済活動の活性化につながる取組を推進します。

県内市町との共創

地域資源の磨き上げや、地域と連携した催事の展開、誘客プログラムの実施等に取り組み、各市町の持つ豊富な魅力を発信します。

● 会期前から会期後までオール滋賀での万博参加



(7) 関西広域連合との連携

関西広域連合の一員として、関西パビリオンを盛り立てていくほか、一体となって催事を実施する際は、関西を共に盛り上げ、滋賀の特長を活かせる企画を検討します。

2

展示計画（ブース出展について）

(1)基本方針

<展示コンセプト>

「Mother Lake ～びわ湖とともに脈々と～」を体験する Mother Lake アドベンチャー

大阪・関西万博は、万博として初めて四方を海に囲まれた会場で開催されます。琵琶湖の水はこの大阪湾に注いでおり、会場と琵琶湖は、水を通じてつながっています。

古代より、琵琶湖は滋賀のみならず、関西の人々の暮らしに深く関わってきました。

この母なる湖、琵琶湖の魅力を自然・文化・歴史の視点で紹介し、その魅力を探求・発見していく展示体験を計画します。展示体験では、体験性を高める展示デバイスの活用やセンシング技術を用い、滋賀の自然の魅力をダイナミックに演出します。

また、来館者に対し、いのちをつなぐ水と自然の尊さ、悠久の歴史に培われた人々のいとなみ、そして現代に暮らす私たちが直面する環境問題と、その解決に向けての視座を示します。

体験にあたっては、性別、文化、言語の違いや障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめるようユニバーサルデザインに配慮した設計とし、特に子どもたちがワクワクできるような展示体験を計画します。

また、CO₂ネットゼロや環境に配慮した素材の活用について、積極的に検討します。

誰もが楽しめる
ユニバーサル
デザイン

子どもたちが
ワクワクできる
体験

来館者の
記憶に残る
ダイナミックな
演出

(2)展示の概要

<ゾーニング>

滋賀の魅力に出会う「滋賀まるごと体感映像」

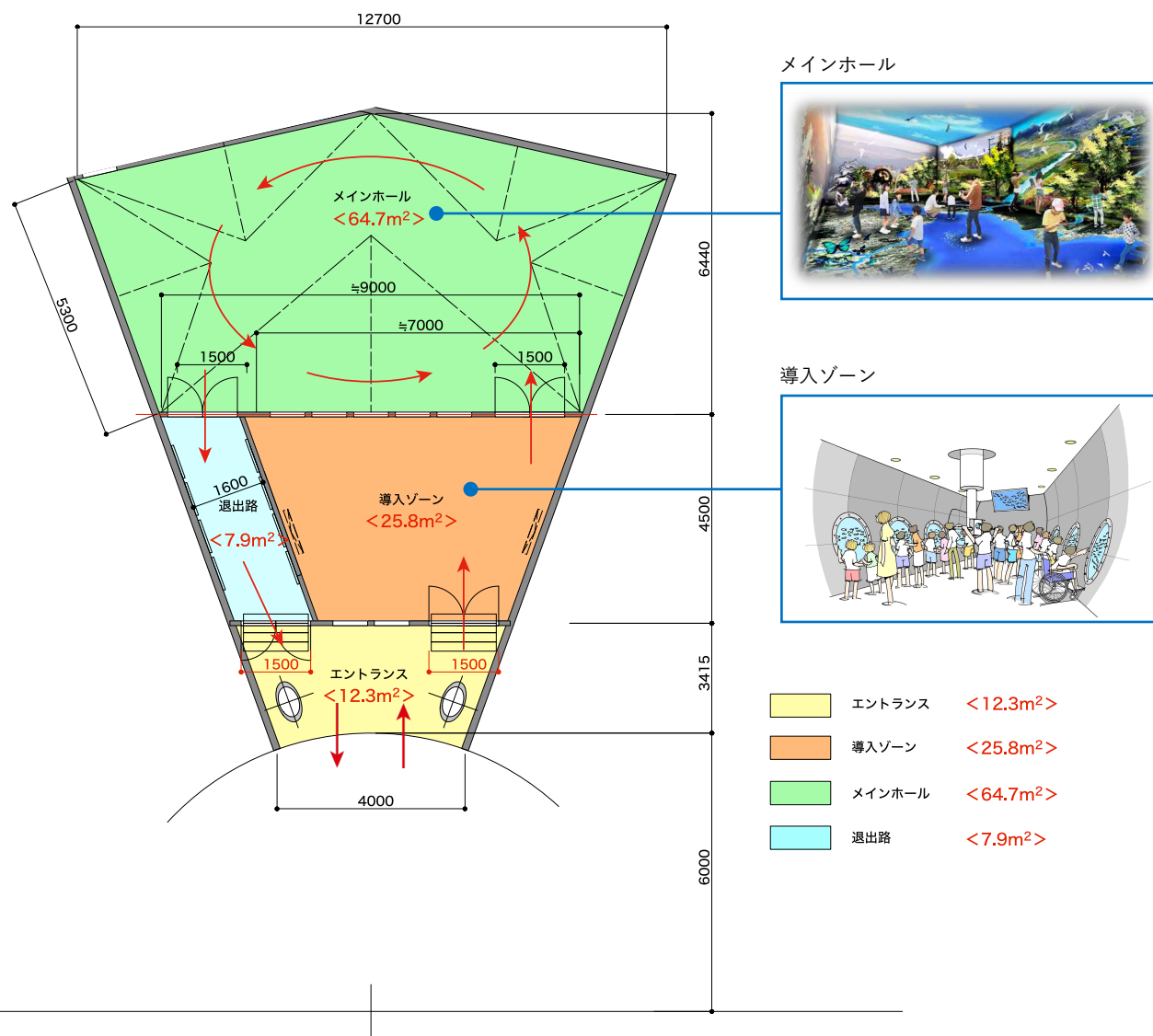
滋賀県ブースは、展示体験用デバイスの貸出しと回収を行う「エントランス」、琵琶湖の魅力ガイドを「導入ゾーン」、琵琶湖の魅力を探検体験する「メインホール」の3つのゾーンで構成します。関西パビリオン中央部から見える潜水艇の乗込口をイメージした※ファサードデザインが、これから始まる琵琶湖水中探検を印象的に伝え、来館者を滋賀県ブースへ誘います。

導入ゾーンでは、実際に潜水艇に乗り込み、琵琶湖が誕生した400万年前から現代までを旅するアドベンチャー体験で、400万年の間に培われた滋賀の豊かさを紹介します。

メインホールでは、琵琶湖を中心に美しい滋賀の自然環境が広がり、没入感のある全面映像の体験空間が、来館者を滋賀の世界観に惹き込みます。

滋賀ならではの自然・歴史・文化の魅力を体系化し、楽しく、記憶に残る展示体験を提供します。

※ファサードデザイン：ブースの入口を正面から見た外観のこと。関西パビリオンは、入館後、パビリオンの中央から各府県のブースに展開する構成となる見込み。



●導入ゾーン 「潜水艇水中体験」

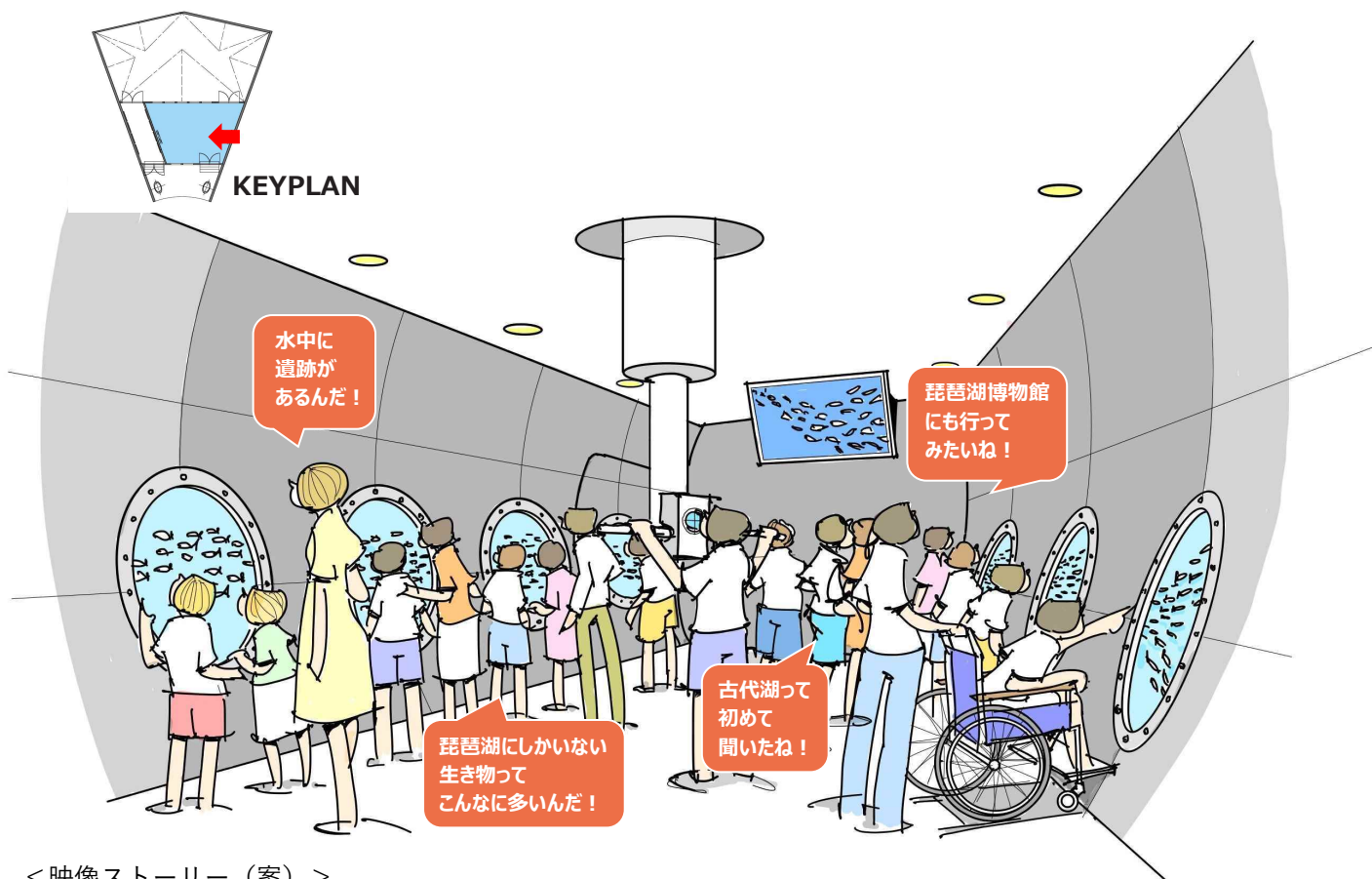
琵琶湖の水中探索から始まる導入演出

琵琶湖が生まれた400万年前に遡り、湖底や水中・湖面を散策！

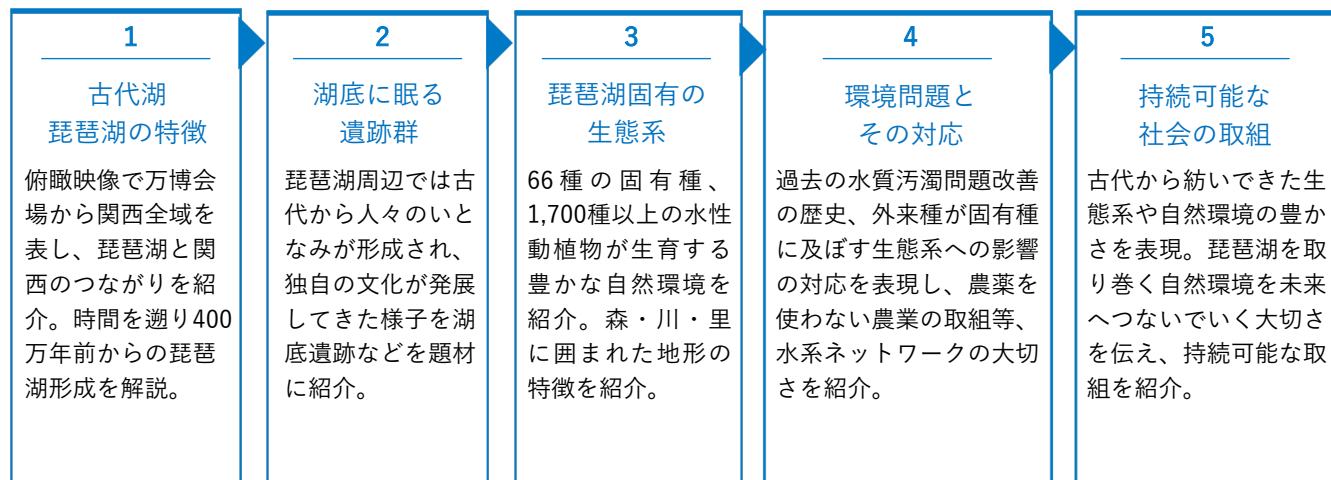
日本唯一の古代湖の魅力を解明していきます。

窓型モニターからは、独自の生態系や琵琶湖の成り立ち、湖底遺跡等、水辺に生きる人々のいとなみや、琵琶湖を中心に培われてきた自然と文化を紹介。

また、「世界農業遺産」に認定された、琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業「琵琶湖システム」や、生態系に影響を及ぼす外来種が増加するなど琵琶湖を取り巻く環境変化への対応等、滋賀県の取組を紹介し、環境先進県としての滋賀も印象付けます。

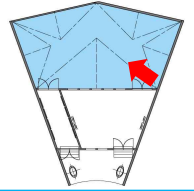


<映像ストーリー（案）>



●メインホール 「滋賀フィールド体験」

KEYPLAN



探す！撮影する！持ち帰る！滋賀の魅力を見つけ出し、
世界にひとつ、自分だけの「滋賀コレクション」を完成！

一歩足を踏み入れると、広大な琵琶湖を中心に、滋賀の360度パノラマが一面に展開する没入感のある映像空間が広がります。床面では琵琶湖の多様な固有種、壁面ではさまざまな動植物が、映像の中からダイナミックに現れます。

「カメラ型デバイス」を活用し、来館者自らがさまざまな生きもの、歴史、文化、滋賀独自の魅力を探し、集める体験を通じ、滋賀の魅力を自分だけの「滋賀コレクション」として持ち帰っていただく仕組みを計画。一連の体験から、持続可能な暮らしや滋賀の豊かな自然を未来へつなげる大切さを訴求します。

●「カメラ型デバイス」

アイテムを、探す・撮影する・持ち帰る。
メインホールで使用するデバイスは
3つの機能が展示の体験性を高めます。



<体験ストーリー（案）>

1

360度パノラマ映像空間で滋賀の自然や環境を再現。

2

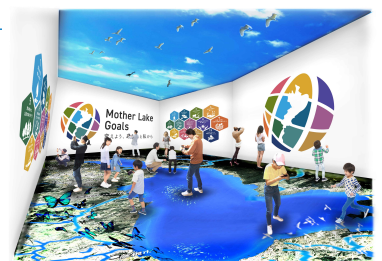
映像の中の琵琶湖や川、森、里山からさまざまな観光資源や生きものを探し出す。

3

見つけたさまざまなアイテムをカメラ型デバイスで撮影し、滋賀コレクションを作成。

4

持続可能な取組のメッセージ映像に転換。



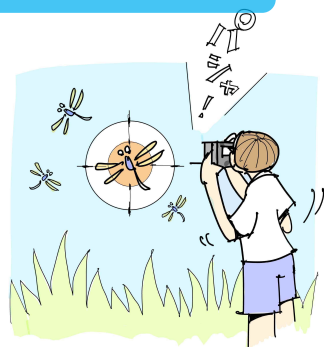
カメラ型デバイスを用いて滋賀の魅力を探す・撮影する・持ち帰る。 3つの機能が記憶に残る体験を演出！

来館者が、映像に隠れた生きものや植物、さらには滋賀で生まれた産業や滋賀に暮らす人々の魅力を探し出す展示体験。カメラ型デバイスで撮影すれば、生きものの特徴や滋賀の観光コンテンツの情報がデバイス画面に表示され、滋賀の魅力を深く知ることができます。

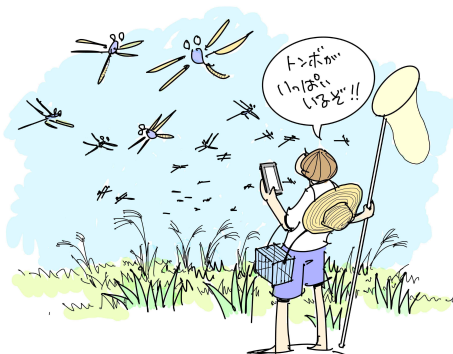
取得した情報は、コレクションし、持ち帰れる仕組みも検討します。

映像の中から生きものが
飛び出してくる！

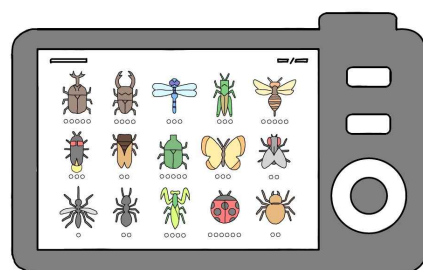
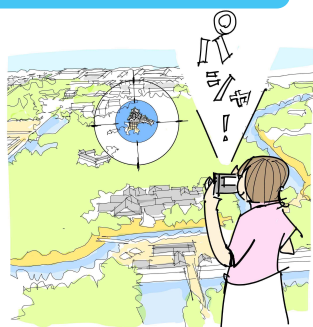
滋賀周遊観光を促進！



集めたアイテムの解説情報を表示！



映像の中から観光
コンテンツを探し出す！



多様な滋賀の魅力を探し、集める体験



●会場外および万博会期終了後の展示コンテンツ活用

展示コンテンツを幅広く活用できるよう、VRゴーグルを使った配信や、各種SNS、動画配信サイト等への映像コンテンツの転用等を見すえ、あらかじめコンテンツの汎用化手法を検討します。

また、県内外や会期後に開催する展示会やイベントでもブースのコンテンツを水平展開できるように、たとえばコンテンツ制作時の画像情報や解説文等について、博物館等の関連施設での利活用を検討します。

●WEBパビリオンとの連携

関西広域連合では、関西パビリオンをWEB上にも出展予定であり、※バーチャル万博と接続し、※MaaSを含む観光案内の機能等を設ける計画です。この仕様を踏まえて本県の展示コンテンツを検討し、連携を図ることで、ブースへの来場に向けて期待感を高めるとともに、ブースとの相乗効果を生み出します。

※バーチャル万博：2025年日本国際博覧会協会が計画する、オンライン空間に万博会場を再現し、世界からアクセスできるようにする取組。

※MaaS：「Mobility as a Service」の略。旅行者一人ひとりの移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせ、検索、予約、決済等を一括で行うサービス。

(3)運営計画

●基本方針

「滋賀県のブースに来てよかった、滋賀に行ってみたい!」と、子どもから大人まですべての来館者に感じていただけるよう、ブース展示の魅力を最大限に活かす運営を目指します。

そのために、万博全体および関西パビリオンで定められる諸条件を遵守しながら、運営に必要な項目をそれぞれ詳細に検討します。

●個別計画

ホスピタリティ計画

ユニバーサルデザインの視点を踏まえたブース展示・運営やICTを活用した多言語対応等により、子ども、高齢者、外国人、障害者等すべての来場者に対し安全・安心に楽しんでいただけるよう努めます。

衛生管理計画

2025年日本国際博覧会協会の会場衛生要項の遵守を基本とし、廃棄物の再資源化等、SDGsを考慮した独自の取組を検討するとともに、その実施体制を構築します。この取組を通じ、滋賀県の環境配慮の姿勢を示していきます。

案内誘導計画

コストと効果を鑑みながら、ブース展示の魅力を最大限に活かす案内誘導配置と運用を検討します。

警備計画

万博の通門ルールの遵守を基本とし、関西パビリオンの警備計画との連携を図ります。

消防防災計画

避難誘導等の計画とそれに伴う自衛消防隊の体制を構築。2025年日本国際博覧会協会の運営との連携方法や防災訓練等も考慮します。

保険等の計画

想定されるリスク項目を洗い出し、保険加入等について検討します。

3

催事計画・来県促進の取組

(1) 催事計画

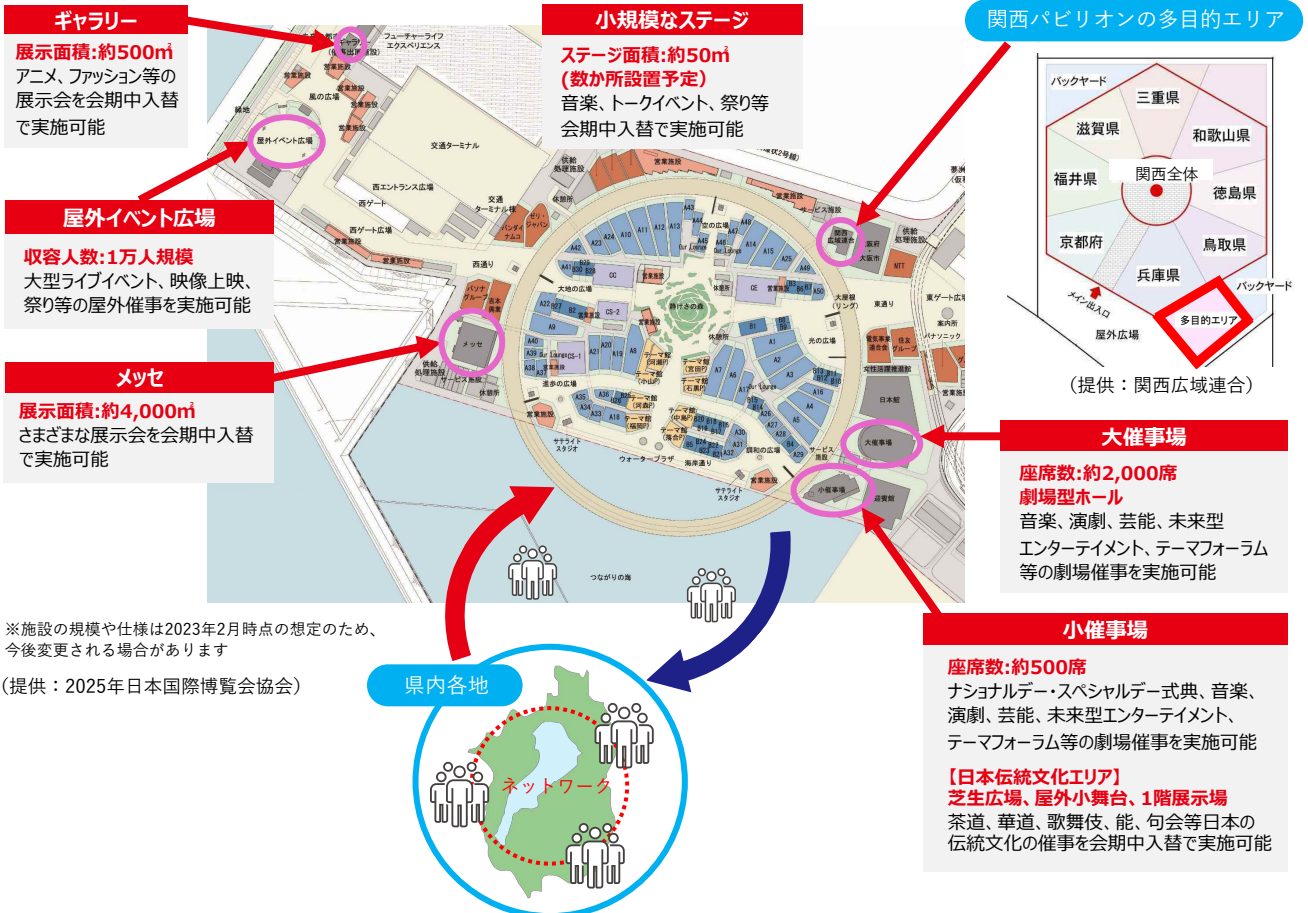
多様なネットワークを活かし、会期前から、県内で機運醸成を図るとともに、関西広域連合とも連携するなど、県外での認知度向上に取り組みます。

また、会期中は、万博会場内の催事施設や関西パビリオンの多目的エリア、県内各地等、さまざまな場を活用してフォーラムやシンポジウム、商談会等の各種催事を展開し、観光誘客や移住促進、ビジネスチャンスの拡大等につなげます。

実施に当たっては、時期・季節や本県の動き（たとえば7月1日の「びわ湖の日」や、「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」、安土城築城450年行事等）と合わせた展開を検討するほか、「滋賀県ウィーク（仮称）」を計画し、会場内催事で滋賀への関心を高めるとともに、県内催事との連携により、本県への誘客を図ります。

あわせて、来県のみならず、県内での催事をきっかけとした万博会場への往訪も促進していきます。

万博会場内の催事施設



(2) 来県促進の取組

- 各地域の持つさまざまな魅力を磨き上げ、受入体制を強化するとともに、テーマに沿った万博会場からの周遊ルート等を創出します。

「シガリズム」の
観光コンテンツ制作

その季節、その土地でしか体験できない観光コンテンツを県内事業者と連携して創出し、滋賀らしいおもてなしの充実を図っていきます。

滋賀ならではの
旅行商品の造成

琵琶湖を中心に東西南北で特色の異なる各地域と、それらをつなぐ交通ネットワークを活かした旅行商品を企画し、県内各地への誘客を促進します。

万博交流
イニシアチブ

国が主導して大阪・関西万博を契機とした人的交流を図るものであり、週ごとにテーマを設定するテーマウィークの展開によるビジネス・学術交流や、修学旅行等の促進による教育交流といったメニューの活用を検討していきます。



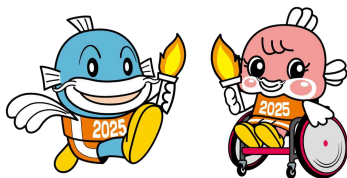
シガリズムとは

琵琶湖をはじめとした自然と歩みをそろえ、ゆっくりといねいに暮らしてきた滋賀の時間の流れや暮らしを体感する、新たなツーリズムの総称です。



(出典：シガリズム体験WEBサイト)

- また、2025年に本県で予定される国スポ・障スポや安土城築城450年行事といった滋賀ならではの記念すべき事業ともしっかり連携し、来県促進の取組を展開します。



わたSHIGA輝く国スポ・障スポマスコットキャラクター
キャッピーとチャッピー



安土城址

- このほか、県内企業の優れた技術や取組を知り、触れる機会を提供することにより、滋賀の企業の魅力をPRし、ビジネス分野における交流を促進します。

4

レガシーの活用

(1)基本方針

万博での取組や有形・無形の成果を、会期後も、県内市町等と協力・連携しながらレガシーとして有効に活用し、※交流人口、※関係人口、※定住人口の増加につなげます。

万博での取組を、期間中だけでなく今後の滋賀のさらなる発展に結びつけるという考えのもとで展示等を計画し、レガシーの積極的な活用に取り組みます。

※交流人口：その地域に訪れる人々のこと。

※関係人口：観光に来る交流人口でなく、移住した定住人口でもなく、地域と多様に関わる人々のこと。

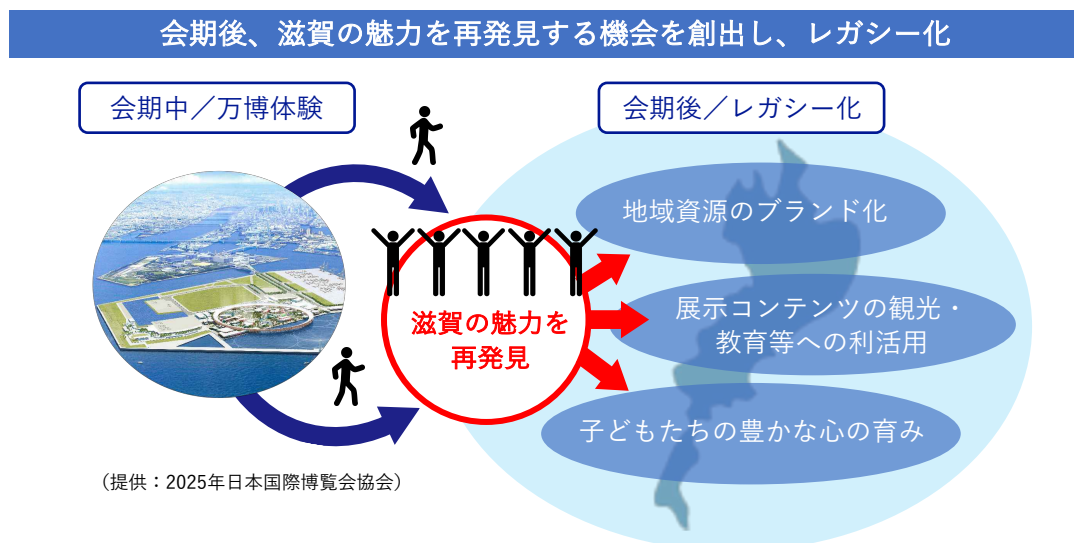
※定住人口：その地域に住んでいる人々のこと。

(2)レガシー活用の方向性

展示に使用したコンテンツは、会期後に観光や教育の分野を中心に活用を検討します。

また万博をきっかけに滋賀に関心を持っていただいた方々に対し、属性やニーズを分析し、関係性を継続、発展できるようマッチングを図ります。具体的な取組として、「滋賀ぐらし」の魅力発信や、商談会、施設見学会等へのアプローチを検討します。

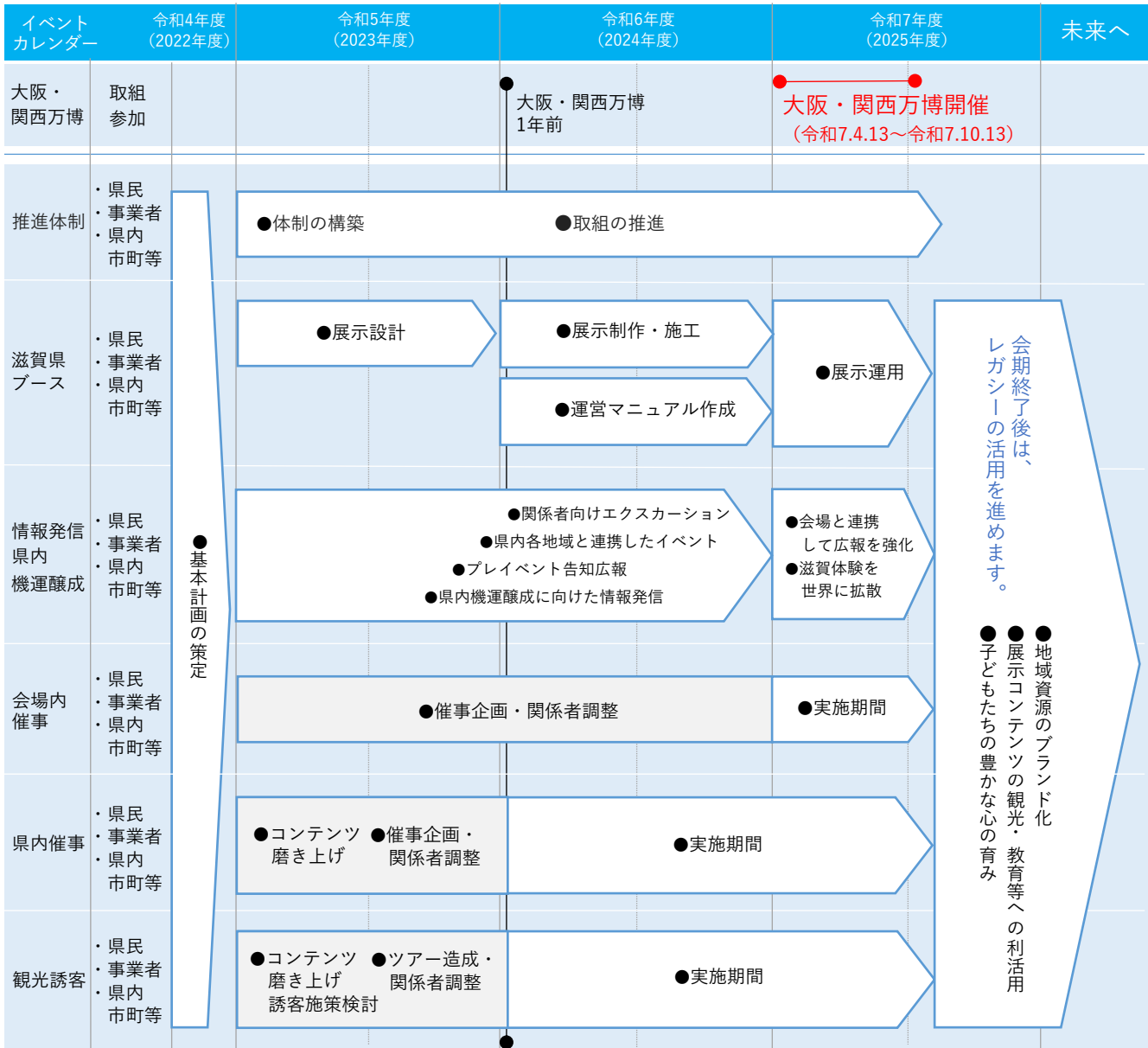
滋賀の子どもたちについては万博に招待して未来社会を実感してもらい、さらに会期後には滋賀の魅力を再発見する機会を創出することで、教育にレガシーを役立てるなどして豊かな心を育み、※シビックプライドのさらなる醸成につなげていきます。



※シビックプライド：「都市に対する市民の誇り」という概念。シビック（市民の／都市の）は権利と義務を持って活動する主体としての市民性という意味。

5

全体スケジュール



このスケジュールをもとに、万博開催までの残り日数を意識しながら準備を進めます。
また、会期後のレガシー活用に至るまで、2025年日本国際博覧会協会や関西広域連合と連携し、
必要に応じて計画に修正を加えながら、一体的な運用を図ります。

大阪・関西万博 滋賀県基本計画

令和5年（2023年）3月

滋賀県

総合企画部企画調整課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1

電話： 077-528-3315 ファクシミリ： 077-528-4830

URL： <https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/kousou/329135.html>



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025



滋賀県